



CentreCOM® 8724SL/8748SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724SL/8748SL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0019-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0019-01 Rev.E）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.7.6-05

2 重要：2.6.1 pl12 以前からバージョンアップするときの注意事項

ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl12** 以前から **2.7.6-05** にバージョンアップすると、最初の再起動時に「設定なし」の状態では起動する場合があります。

このようなときは、バージョンアップ後にコンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
```

```
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥ることを避けるため、次の手順にしたがってバージョンアップを行ってください。

1. バージョン **2.6.1 pl12** 以前で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモします。

```
SHOW CONFIG
```

3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定なし」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

```
CREATE CONFIG=boot.cfg
```

4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、**2.7.6-05** にバージョンアップします。
6. バージョン **2.7.6-05** で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。

```
SET CONFIG=xxxx
```

8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。

```
DELETE FILE=boot.cfg
```

9. 以上です。

3 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.3-09 から 2.7.6-05 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。


3.1 コマンド入力補助機能の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コマンドプロセッサー」

コマンド入力時の補助機能が拡張され、TAB キーによるキーワード補完や入力候補の表示などができるようになりました。

なお、この機能拡張にともない、従来の TAB キーの機能（入力途中のコマンドとマッチする最新のコマンド履歴を表示）は Ctrl/R にキー割り当てが変更されました。

3.2 RADIUS バックアップユーザー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証データベース」

RADIUS サーバーからの応答がなかった場合にだけ使用される特殊なユーザーアカウント（RADIUS バックアップユーザー）をサポートしました。

RADIUS バックアップユーザーを登録するには、ADD USER コマンドの RADIUSBACKUP パラメーターに YES を指定します。

なお、RADIUS バックアップユーザーを 1 つでも登録している場合は、認証の順序が「RADIUS サーバーによる認証」→「ユーザー認証データベースによる認証」に変わります（通常は「ユーザー認証データベースによる認証」→「RADIUS サーバーによる認証」の順）。

3.3 マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「マルチプルスパニングツリープロトコル」


IEEE802.1s 準拠のマルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) をサポートしました。MSTP では、複数の VLAN をグループ化した MST インスタンスごとにスパニングツリーを構築し、負荷分散を行うことができます。また、MSTP では、ネットワーク上のブリッジ（スイッチ）を MST リージョンと呼ばれるグループに分割することで、ネットワークの設計や管理を容易にすることができます。

3.4 EAP-TTLS、EAP-PEAP のサポート

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

802.1X Authenticator ポートにおいて、認証方式 EAP-TTLS と EAP-PEAP に対応しました（EAP-TTLS、EAP-PEAP を使用する Supplicant を認証できるようになりました）。なお、本機能に関する設定項目はありません（設定は不要です）。


3.5 DHCP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「DHCP Snooping」

DHCP サーバー・クライアント間でやりとりされる DHCP メッセージを監視して動的な IP ソースフィルタリングを行う DHCP Snooping をサポートしました。


本機能を利用すれば、DHCP サーバーを用いたネットワーク環境において、正当な DHCP クライアントにだけ IP 通信を許可することができます。

3.6 RIP : BGP-4 経路の通知

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(RIP\)」](#)


BGP-4 で学習した経路を RIP で通知できるようになりました。設定は、新しく追加された ADD IP RIP REDISTRIBUTE コマンドで行います。

3.7 OSPF : ユニキャストによるメッセージ交換

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

VLAN 上において、OSPF のメッセージ交換をユニキャストで行えるようになりました。設定は、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された NETWORK、POLLINTERVAL パラメーターと、ADD OSPF NEIGHBOUR コマンドで行います。

3.8 OSPF : パッシブインターフェース


 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

OSPF パケットの送受信を行わない特殊なインターフェース（パッシブインターフェース）をサポートしました。

パッシブインターフェースでは OSPF パケットの送受信を行いませんが、同インターフェースに接続されているネットワークの情報は、スタブネットワークとしてルーター LSA に追加されます。


パッシブインターフェースを作成するには、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された PASSIVE パラメーターに ON を指定します。

3.9 OSPF : AS 外部経路の集約

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

AS 境界ルーター（ASBR）において、AS 外部経路を集約してから AS 内に通知する機能が追加されました。設定は新しく追加された ADD OSPF SUMMARYADDRESS コマンドで行います。

3.10 OSPF : スタティックに由来する AS 外部経路のメトリックとメトリックタイプ設定

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

AS 境界ルーター（ASBR）において、スタティック経路に由来する AS 外部経路のメトリックとメトリックタイプを任意に設定できるようになりました。設定は新しく追加された ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドで行います。

3.11 BGP-4 : デフォルト経路の取り込み・通知の制御

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

BGP の経路表にデフォルト経路 (0.0.0.0/0) を取り込むかどうか、また、取り込んだデフォルト経路を BGP ピアに通知するかどうかを制御できるようになりました。デフォルトは取り込み・通知ともに「しない」です。

取り込みの設定は、新しく追加された ENABLE/DISABLE BGP DEFAULTORIGINATE コマンドで行います。通知の設定は、ADD BGP PEER コマンドに追加された DEFAULTORIGINATE パラメーターで行います。

3.12 BGP-4 : 自動集約機能

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

自らが生成もしくは取り込んだ経路情報を、自動的にクラスフルネットワーク（クラス A、B、C のネットワーク）に集約して通知する機能が追加されました。デフォルトは「集約しない」です。


設定は、新しく追加された ENABLE/DISABLE BGP AUTOSUMMARY コマンドで行います。

3.13 BGP-4 : ピアごとの受信経路数表示

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

SHOW BGP PEER コマンドにおいて、該当ピアから学習した経路の数が表示されるようになりました。「Routes learned」欄をご覧ください。

3.14 ダイナミック ARP エントリーの一括削除

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「ARP」](#)

DELETE IP ARP コマンドが拡張され、ARP キャッシュからダイナミックエントリーを一括削除できるようになりました。一括削除を行うには、ARP パラメーターの値として新しく追加されたキーワード ALLDYNAMIC を指定します。


3.15 DHCP リレーエージェント情報オプション


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「DHCP/BOOTP リレー」](#)


DHCP/BOOTP リレー機能に、リレーエージェント情報オプション（オプションコード 82）の付加・検査・削除を行う機能が追加されました。本機能を有効にすると、クライアントからの DHCP/BOOTP パケットを転送するときにリレーエージェント情報オプションを挿入し、サーバーからの戻りパケットをクライアントに転送するときに同オプションを削除するようになります。

機能の有効化・無効化は ENABLE/DISABLE BOOTP RELAY OPTION82 コマンドで、動作設定は SET BOOTP RELAY OPTION82、SET BOOTP RELAY OPTION82 PORT コマンドで行います。

3.16 IGMP/IGMP Snooping : Join 可能なグループの制限 (IGMP フィルター)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)


スイッチポートごとに、Join 可能なマルチキャストグループを制限する機能（IGMP フィルター）が追加されました。

IGMP フィルターの作成とエントリー追加は新しく追加された CREATE/ADD IGMP FILTER コマンドで、スイッチポートへの適用は SET SWITCH PORT コマンドに追加された IGMPFILTER パラメーターで行います。

3.17 IGMP/IGMP Snooping : Join 可能なグループ数の制限

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)

スイッチポートごとに、Join 可能なマルチキャストグループアドレスの数を制限する機能が追加されました。グループの数が制限値に達した場合の処理としては、DENY（それ以降の Join を拒否）と REPLACE（古いグループエントリーを削除して新しいエントリーを登録）の 2 種類から選択できます。

設定は、SET SWITCH PORT コマンドに追加された IGMPMAXGROUP パラメーター（グループ数の指定）と IGMPACTION パラメーター（制限に達した場合の処理）で行います。

3.18 IGMP Snooping : 高速脱退機能 (Fast Leave)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)

IGMP Snooping に高速脱退 (Fast Leave) 機能が追加されました。通常、あるポートで Leave Group メッセージを受信したときは、Group-Specific Membership Query メッセージを何度か送信して（送信間隔と回数は LMQL、LMQC パラメーターで決定）、該当ポートの配下に他のメンバーホストが存在しないことを確認してから受信ポートをグループのメンバーリストから削除しますが、本機能を有効にしている場合は、Leave Group メッセージの受信後ただちに受信ポートをメンバーリストから削除します。本機能は、ポート配下に 1 台しかホストが接続されていないことを前提にした機能です。ポート配下に複数のホストが接続されている場合は有効化しないでください。

設定は、新しく追加された SET IGMPSPNOOPING FASTLEAVE コマンドで行います。

3.19 PIM6-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6 マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)


IPv6 用のマルチキャスト経路制御プロトコルとして PIM-SM (Protocol Independent Multicast - Sparse Mode) に対応しました。アドレス体系が異なることと、モジュール名が PIM6 であることを除けば、IPv4 用の PIM-SM とほぼ同じ要領で設定が可能です（本製品では、IPv4 用の PIM モジュールと区別するため、IPv6 用の PIM モジュールを PIM6 と呼んでいます）。ご使用には IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。なお、IPv6 用の PIM-DM (PIM6-DM) は現在未サポートです。

3.20 MLD

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6 マルチキャスト」](#) / [「MLD」](#)

IPv6 のマルチキャストグループメンバーを管理するためのプロトコル、MLD (Multicast Listener Discovery) に対応しました。本機能は IGMP の IPv6 版に相当するもので、通常マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-SM (PIM6-SM) と併せて使用します。ご使用には IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

3.21 VRRP：プリエンプトモードにおけるマスター移行前待機時間の設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

プリエンプトモード有効時、マスタールーターよりも高い優先度を持つルーターがマスターに移行する前に待機する時間を設定できるようになりました。

設定は、CREATE VRRP コマンドに追加された DELAY パラメーターで行います。

4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.7.3-09** から **2.7.6-05** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

4.1 BGP-4：最適経路の選択手順変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

BGP-4 において、特定のプレフィックスまでの経路が複数存在する場合に最適な経路を選択する手順を変更しました。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.7.3-09** から **2.7.6-05** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 応答コード 404 (Not Found) を返さない Web サーバーに対して LOAD コマンド (LOAD METHOD=HTTP) を実行すると、FILE パラメーターで指定したファイルが該当サーバー上になかった場合に本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.2 SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されていましたが、これを修正しました。
- 5.3 ADD LOG RECEIVE コマンドで SRLP によるログ受信を有効にしても、送られてきたログを正しく受信できないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.4 ログ出力先定義「PERMANENT」を CREATE LOG OUTPUT コマンドで新たに作り直すと、最大格納メッセージ数 (MESSAGES パラメーター) がデフォルトの 20 ではなく 50 になっていましたが、これを修正しました。
- 5.5 ifType の値が ethernetCsmacd(6) ではなく iso88023Csmacd(7) になっていましたが、これを修正しました。
- 5.6 IEEE8021-PAE.MIB において、各オブジェクトの Object ID が 1 つずつずれていましたが、これを修正しました。
- 5.7 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できませんでしたが、これを修正しました。

- 5.8 SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーター（同時に確立可能な Telnet セッション数）が正しく機能しませんでした、これを修正しました。
- 5.9 (8748SLのみ) ポートグループ「1～24、50」と「25～48、49」の間で 100Mbps 以上のトラフィックが発生した場合、CPU 使用率が 100% となり、場合によっては CPU 宛での通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 5.10 同一 MAC アドレスのパケットを複数のポートで受信するような環境（ループ環境など）においてリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.11 DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりませんでした、これを修正しました。
- 5.12 SET SWITCH PORT コマンドの DESCRIPTION パラメーターに文字列を設定すると、その後パラメーターの値をデフォルト値に戻すことができませんでしたが、これを修正しました。
- 5.13 CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成した後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの表示上の順序が変更されていましたが、これを修正しました。
- 5.14 ポートトランキングと DVMRP の併用時、マルチキャストデータの転送ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 5.15 起動時設定ファイルにおいて、ポートトランキングの設定が VLAN へのポート割り当て設定より前に書かれていると、起動時にポートトランキングの設定が有効にならずループが発生していましたが、これを修正しました。
- 5.16 ポートトランキングと Rapid モードのスパニングツリープロトコル（RSTP）を併用した場合、Topology Change が発生しても FDB がクリアされず、通信ができなくなりましたが、これを修正しました。
- 5.17 ポートトランキング（または LACP）とスパニングツリープロトコル（STP/RSTP）を併用するとループが起こることがありましたが、これを修正しました。
- 5.18 ポートセキュリティとポートミラーリングの併用時、本体（CPU）発の ARP Reply と ICMP Reply がミラーポートから出力されませんでした、これを修正しました。
- 5.19 Rapid モードのスパニングツリープロトコル（RSTP）で非ルートブリッジとして動作している場合、ポートが Discarding 状態から Forwarding 状態に遷移するときのフォワードディレイタイムとして、ルートブリッジの値ではなく自身の設定値を使用していましたが、これを修正しました。
- 5.20 タグ付きポート上で LACP とスパニングツリープロトコル（STP）を併用した場合、SHOW STP PORT コマンドによるポート情報が正しく表示されませんでした、これを修正しました。

- 5.21 スパニングツリープロトコル (STP) 使用時、受信した BPDU Config の Message Age の値と Max Age の値の差が 0.1 秒未満であったとき、その後 BPDU を送信しなくなりましたが、これを修正しました。
- 5.22 (8748SL のみ) ポートセキュリティーをオンにすると、FDB スタティックエントリーの情報が一部消えてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.23 (8748SL のみ) QoS 機能使用時、ポートグループ「1～24、50」と「25～48、49」をまたぐ通信の受信レートが、またがない通信よりも低くなっていましたが、これを修正しました。
- 5.24 DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルタエントリーが削除されませんでした。これを修正しました。
- 5.25 Authenticator として動作しているとき、Supplicant の認証に成功しても、START 属性を持つ Accounting-Request メッセージを RADIUS サーバーに送信しませんでした。これを修正しました。
- 5.26 SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.27 ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがありましたが、これを修正しました。
- 5.28 Traceroute を受けたときなど、ICMP Time Exceeded メッセージの始点 IP アドレスに適切でない値を使用することがありましたが、これを修正しました。
- 5.29 OSPF インターフェースの IP アドレスを変更すると、その後 IP アドレスを元に戻しても OSPF の隣接関係が回復しませんでした。これを修正しました。
- 5.30 ADD OSPF STUB または ADD OSPF HOST コマンドがすでに設定されている状態で同一コマンドを再入力すると、OSPF Hello パケットの送受信が行われなくなりましたが、これを修正しました。
- 5.31 同一宛先への経路が複数存在する OSPF 環境において、LSDB 上ではメトリックが異なるにもかかわらず、IP 経路表には同一メトリックの経路として反映されるため、最適な経路が選択されないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.32 ASBR の OSPF インターフェースに設定されているネットマスク値と ADD OSPF RANGE コマンドの MASK パラメーターで指定するネットマスク値が異なっていると、ABR から受信した ASBR サマリー LSA の情報が経路表に反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.33 デフォルト AS 外部 LSA のメトリックタイプ (SET OSPF コマンドの TYPE パラメーター) を変更した後で RESET OSPF コマンドを実行すると、デフォルトルートの LSA が削除されていましたが、これを修正しました。

- 5.34 ADD BGP PEER コマンド、SET BGP PEER コマンドの EHOPS パラメーターが機能しませんが、これを修正しました。
- 5.35 ADD IP ROUTEMAP コマンドで MATCH COMMUNITY 節を追加したとき、不適切な警告メッセージが表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 5.36 BGP-4 において、経路集約時に ORIGIN 属性を正しくセットしないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.37 経路情報を E-BGP ピアに再通知するとき、ルートマップによって設定された MED 属性を付加したまま UPDATE メッセージを送信することがありましたが、これを修正しました。
- 5.38 SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX パラメーターを設定した場合、最大プレフィックス数を超過してセッションが終了した後も TCP SYN パケットを送出し続けていましたが、これを修正しました。
- 5.39 BGP-4 において、手動で取り込んだ経路がつねに最優先されていたが、これを修正しました。
- 5.40 ADD BGP AGGREGATE コマンドで集約経路エントリーを設定した場合、設定したプレフィックスより具体的な経路を学習していなくても、集約経路を通知することがありましたが、これを修正しました。
- 5.41 ADD IP ROUTEMAP コマンドおよび ADD IP COMMUNITYLIST コマンドの BGP コミュニティ指定において、「asn:xxx」形式の AS 番号 (asn) に 0 を指定するとコマンドがエラーになり正常に登録されませんでした。これを修正しました。
- 5.42 ARP テーブルからスタティックエントリーを削除したとき、本製品の ARP Request に対する Reply を受信しても該当ホストのエントリーが ARP テーブルに登録されませんでした。これを修正しました。
- 5.43 通信中の IP アドレスに対応する ARP エントリーが削除されることがありましたが、これを修正しました。
- 5.44 タイプ 2 経路制御ヘッダー (Routing Header) を持つ Mobile IPv6 (MIPv6) パケットをエラーパケット (Parameter Problem) と見なして破棄していましたが、これを修正しました。
- 5.45 存在しないリンクローカルアドレス宛での ICMPv6 Request を受信すると、レポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.46 Neighbour キャッシュが空の場合、不正な MAC アドレスを持つ IPv6 パケットがポート 1 から送出されることがありましたが、これを修正しました。
- 5.47 SET IPV6 INTERFACE コマンドで PREFERRED と VALID の値を INFINITE に変更しても、ルーター通知 (RA) パケットに反映されませんでした。これを修正しました。


- 5.48 IPv6において、宛先への経路が複数存在する場合に経路表の更新処理が正しく行われな
いことがありましたが、これを修正しました。
- 5.49 RIPng で学習した経路の中に自インターフェースのネットワークアドレスが含まれてい
る場合、それを経路表に反映しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.50 RIPng のループ構成でポイズンリバースが動作しませんでしたでしたが、これを修正しまし
た。
- 5.51 SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能します
が、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存しても同コマンドが書き込まれませんでした
でしたが、これを修正しました。
- 5.52 ADD IPV6 PREFIX コマンドを、IPv6 インターフェースと同じ IPv6 アドレス / プレ
フィックス長を指定して実行した場合、コマンドが反映されませんでしたでしたが、これを修
正しました。
- 5.53 DVMRP または PIM の使用時、タグ付きのマルチキャストパケットを正しくルーティン
グできませんでしたが、これを修正しました。
- 5.54 PIM-SM において、下流インターフェースがリンクダウンして隣接ルーターとの隣接関
係がタイムアウトしても、PIM 経路表の下流インターフェース一覧から該当インター
フェースが削除されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.55 IGMP において、Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージ
を受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送
信していましたが、これを修正しました。
- 5.56 IGMP Snooping において、IP の設定がされていないと、Leave メッセージを受信した
ときに受信ポートをグループから削除していましたが、これを修正しました。
- 5.57 (8748SL のみ) MLD Snooping において、通常のメンバーポート（クライアントポー
ト）と All routers グループ所属のポート（ルーターポート）が、それぞれ別のポートグ
ループ（後述）に属している場合、ルーターポートがクライアントポートよりも先にタ
イムアウトすると、ルーターポートへのマルチキャスト転送が停止しませんでした
が、これを修正しました。
(8748SL には、「1 ~ 24、50」と「25 ~ 48、49」の 2 つのポートグループがありま
す)
- 5.58 ポートランキングと MLD Snooping の併用時、非マスターポートで受信した IPv6 マ
ルチキャストパケットをマスターポートから送信するため、ループが発生してしま
いましたが、これを修正しました。
〔「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポート、「非マ
スターポート」はそれ以外のポートを示します〕
- 5.59 ファイアウォールを無効にしても、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER
オプションで表示される「Number of active session」の値がクリアされませんでした
が、これを修正しました。

- 5.60 ファイアウォール使用時、RTSP サーバーからの再送パケットに追加データが付加されていた場合、該当パケットを正しく転送できず、結果的にクライアント側においてストリーミング再生が停止することがありましたが、これを修正しました。
- 5.61 SET VRRP コマンドで ADOPTVRIP=ON に設定した場合、ICMP Reply の始点アドレスに実インターフェースアドレスをセットするため、Windows XP からの Ping でタイムアウトが発生していましたが、これを修正しました。
- 5.62 VRRP インターフェースのリンクアップ / リンクダウンのトラップを送出すると、それ以降トラップが送出されなくなっていました。これを修正しました。
- 5.63 VRRP のマスタールーターとして動作しているとき、Sender IP にバーチャル IP アドレスがセットされている Gratuitous ARP パケットを受信すると ARP キャッシュに登録することがありましたが、これを修正しました。
- 5.64 VRRP 使用時、VRRP の状態と ARP 登録のタイミングによっては L3 テーブルが書き換わらず、通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 5.65 DHCP サーバー機能において、クライアント 1 に IP アドレスを割り当てた際、クライアント 2 から同一の IP アドレスの要求があると、クライアント 1 に対して DHCPNAK を送信していましたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.7.6-05 には、以下の制限事項があります。

6.1 SET RADIUS コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**


RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくくなります。

6.2 ログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

- DESTINATION=NVS のログ出力先定義に対し、SET LOG OUTPUT コマンドで MESSAGES パラメーター（保存件数）を変更すると、すでに NVS 上に保存されていたメッセージがすべて消去されます。
- CREATE LOG OUTPUT コマンドでログ出力先を定義しようとすると、「Internal Error: Failed to create output definition.」というエラーメッセージが表示され、出力先を定義できないことがあります。

6.3 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**


- dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。
- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- プライベート MIB の instRelMajor、instRelMinor、instRelInterim の値を取得できません。

6.4 SHOW NTP コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**


本製品の IP アドレスを変更しても、SHOW NTP コマンドの「Host Address」欄（NTP モジュールの使用している IP アドレス）が更新されません。これは表示だけの問題で動作には影響ありません。

6.5 SHOW SWITCH PORT コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


SHOW SWITCH PORT コマンドの表示において、「Broadcast rate limit」、「Multicast rate limit」、「DLF rate limit」各欄の表示が「xxxx/s」（xxxx は数値）となっていますが、これは「xxxx fps」（Frames Per Second）の意味です。

6.6 ポートランキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


- ポートランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMP Snooping コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。（「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します）
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターでトランクポートを指定した場合、指定ポートがマルチプル VLAN（Private VLAN）の同一グループ所属であるかのチェックが行われません。これを回避するため、マルチプル VLAN とポートランキングを併用するときは、先にトランクグループを作成してから、トランクグループをマルチプル VLAN に割り当ててください。

6.7 ポートセキュリティ

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


ポートセキュリティがオンのポートで受信したパケットの VLAN ID が、ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、アドレスを FDB に登録します。

6.8 LACP (IEEE802.3ad)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「LACP \(IEEE802.3ad\)」](#)


LACPによって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。

6.9 バーチャル LAN

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)


Protected VLAN のポートをミラーリングポートに設定すると、Protected VLAN のポート間で通信ができてしまいます。

6.10 スパニングツリープロトコル (STP/RSTP)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「スパニングツリープロトコル」](#)


- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に Topology Change が発生すると、すべてのポートから ARP エントリーが削除されます。
- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時、スイッチポートがリンクダウンしても STP のポート状態が Forwarding のまま変化しません。このため、スパニングツリーの再構成にかかる時間が最大エージタイム (MaxAge) の分だけ長くなります。
- Rapid モードのスパニングツリープロトコル (RSTP) 有効時、Topology change が起きた後、FDB が正常に登録されないことがあります。通信の動作に影響はありません。

6.11 マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「マルチプルスパニングツリープロトコル」](#)


- DISABLE MSTP MSTI PORT コマンドを実行してマルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) を無効にしたポートでは、MAC アドレスの学習が行われません。BPDU を送信する必要がないポートでは、DISABLE MSTP MSTI PORT コマンドを使用するのではなく、SET MSTP CIST PORT コマンドの EDGEPORT パラメーターに YES を指定してエッジポートに設定してください。
- マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) を有効にすると、ミラーポートからも BPDU を送信します。
- CIST リージョナルルートとして動作しているとき、BPDU 内の CIST Internal Root Pathcost フィールドに 0 ではなく External Pathcost の値をセットして送信します。ただし、マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) の動作には影響ありません。
- SET MSTP コマンドの PRPOTOCOLVERSION パラメーターに RSTP を指定するとループが発生します。本製品の配下に RSTP 動作中のスイッチが存在している場合でも、PROTOCOLVERSION には RSTP を指定せず、デフォルト値の MSTP でご使用ください。

6.12 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

エラーパケットを受信したときも、送信元 MAC アドレスをフォワーディングデータベース (FDB) に登録します。

6.13 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」


- 8748SL では、ポート 25 ~ 48 とポート 49 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT、SENDEPORT アクションが機能しません。
- ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで IMPORT=False、または EXPORT=False を指定すると、IMPORT=True、EXPORT=True の設定で動作します。False で動作させたい場合は、IMPORT、EXPORT パラメーターを指定しないでください (デフォルトで False の設定になります)。

6.14 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」


- 802.1X Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Suppliant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB である AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- Authenticator ポート、MAC ベース認証ポートにおいて、Suppliant の再認証を有効にし (REAUTHENABLED = TRUE)、再認証間隔 (REAUTHPERIOD) を短い値 (10 秒程度) に設定しているとき、RADIUS サーバーから Suppliant に向けて短い間隔で Ping 通信が行われるとレポートすることがあります。
- MAC アドレスベース認証において再認証に失敗しても、プライベート MIB の atrMacBasedAuthUnauthenticated トラップが送信されません。

6.15 IP 統計情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


ファイアウォール有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts, ifInBcastPkts, ifInUcastPkts, ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。

6.16 PING コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


PING コマンドの PATTERN パラメーターには、Ping パケットのデータパターンを 16 進数 8 桁で指定する仕様ですが、9 桁以上入力してもエラーになりません。また、9 桁以上入力した場合は、末尾の 8 桁がデータパターンとして使用されます。

6.17 TRACE、SET TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- SET TRACE コマンドにおいて、MINTTL (最少ホップ数) に MAXTTL (最大ホップ数) より大きい値を指定してもエラーになりません。
- TRACE コマンドにおいて、パラメーター指定が正しくないときに表示が文字化けします。

6.18 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」


ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) にブロードキャストアドレスを指定してもエラーになりません。ローカル IP インターフェースに IP アドレスを割り当てるときは、割り当てようとしている IP アドレスがご使用のネットワークにおいて利用可能なものであるかどうかを確認してください。

6.19 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC1 パラメーターに値を指定し、METRIC2 パラメーターには値を指定しない場合、METRIC2 パラメーターに省略時の 1 が設定されず、METRIC1 パラメーターで指定した値が設定されます。

6.20 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=ON を指定した場合、IP の経路表にデフォルト経路がなくても、デフォルトルートの AS 外部 LSA を生成します。
- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=OFF を指定しても、デフォルトルートの AS 外部 LSA を生成します。

- バックアップ DR として動作している OSPF インターフェースのルーター優先度 (SET OSPF INTERFACE コマンドの PRIORITY パラメーター) を 0 に変更しても、該当インターフェースが非 DR/ 非バックアップ DR に移行しません。
- ASBR として動作している場合、非 OSPF インターフェースの経路情報をタイプ 5 LSA で配布しますが、IP ルートフィルターを用いてこの経路情報を配布しないよう設定すると、LSAge=3600 のタイプ 5 LSA を 1 秒間隔で送信してしまい、結果的に OSPF の隣接関係を確立できなくなることがあります。ASBR 時、非 OSPF インターフェースの経路を IP ルートフィルターでフィルタリングしないでください。

6.21 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

プライベート AS フィルターを有効にすると、自身のプライベート AS 番号まで削除してしまいます。

6.22 IP ルートフィルターと OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御フィルター」

IP ルートフィルターと OSPF の併用時、「DIRECTION=SEND ACTION=INCLUDE」のエントリーにマッチした経路が他のエリアに通知されません。

6.23 DNS サーバーアドレスの動的取得

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

6.24 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

6.25 ARP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録します。

6.26 ソフトウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」

ADD IP FILTER コマンドで複数のエントリーを登録する場合、設定が適用されずエラーが出力されることがあります。この場合は、エントリーの入力順序を変更してみてください。

6.27 IPv6

「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- MLD Query パケットの送信時に ICMPv6 カウンターの OutGroupMembQueries ではなく OutEchos がカウントアップします。
- ICMPv6 Time Exceeded パケットの送信時に ICMPv6 カウンターの InTimeExcds がカウントアップされます。

6.28 RIPng

「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「経路制御 (RIPng)」

RIPng においてトリガーアップデートが動作しません。

6.29 Neighbour キャッシュ

「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。

6.30 ルーター通知 (RA)

「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- IPv6 インターフェースがダウンしても、Lifetime フィールドが 0 のルーター通知 (RA) パケットが送信されません。
- ルーター通知 (RA) において、SET IPV6 PREFIX コマンドでパラメーターに ONLINK=NO を指定して実行すると、プレフィックス情報オプションの L フラグだけでなく、A フラグ (AUTONOMOUS パラメーター) もオフになってしまいます。

6.31 DVMRP

「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

- DVMRP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラグディングされません。
- DVMRP とタグ VLAN の併用時、マルチキャストデータが正常にルーティングされないことがあります。

6.32 PIM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」


- (PIM-DM/PIM-SM) マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェア IP フィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
ADD SWITCH L3FILTER MATCH=DIP DCLASS=HOST
```

```
ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY DIP=224.0.0.13 PRIO=5 AC=SEND
```


- (PIM-SM) PIM-SM 関連のログと SNMP トラップを有効にしても (SET PIM LOG コマンド)、PIM インターフェース削除時のログとトラップが生成されません。
- (PIM-SM) PIM インターフェースでメンバーからの IGMP Leave メッセージを受信しても、該当インターフェースが下流インターフェースのエントリーから削除されないため、マルチキャストパケットがフラッディングされます。
- (PIM-DM/PIM-SM) PIM モジュール有効時、同一インターフェース上で 1000 グループ程度のマルチキャストを転送すると CPU 負荷が 100% になる、または本製品がリブートすることがあります。
- (PIM-SM) DR でないインターフェースにおいて、マルチキャストグループが登録されている状態で IGMP Report を受信すると、PIM Join メッセージを送信します。
- (PIM-SM) すべてのポートがリンクダウンしている状態で ADD PIM BSRCANDIDATE コマンドを実行すると、警告メッセージが表示されます。
- (PIM-DM) Prune 中に上流ルーターの Generation ID が変更されても Prune メッセージを再送せず、結果として、次の Prune メッセージを送信するタイミングまで不要なマルチキャストトラフィックを受信してしまいます。
- (PIM-SM) (S,G) null Register メッセージのパケットフォーマットが正しくありません。ただし、動作には影響ありません。

6.33 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP の統計カウンター outQuery の値が正しくありません。


6.34 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

- SET IGMPSPNOOPING ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

- Leave メッセージを受信しても統計カウンター inLeave がカウントアップされません。
- ポートトランキングと IGMP Snooping を併用しており、なおかつ、IGMP を無効に設定しているとき、マスターポートで Leave メッセージを受信すると、該当マルチキャストグループからトランクポートが削除されます。
(「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します)
- DVMRP または PIM を有効にしているとき、IGMP Snooping を無効に設定しても、マルチキャストトラフィックの受信インターフェース (VLAN) においては、該当トラフィックが VLAN 内にフラッディングされません。

6.35 MVR

 **【コマンドリファレンス】 / 【IP マルチキャスト】 / 【MVR】**

(8748SL のみ) 「1 ~ 24, 50」と「25 ~ 48, 49」のポートグループをまたぐ構成で複数の VLAN を作成し、MVR を利用したマルチキャスト通信を行っているとき、片方のポートグループで IGMP Leave メッセージを受信すると、もう片方のポートグループでもマルチキャスト通信が停止します。

6.36 PIM6-SM

 **【コマンドリファレンス】 / 【IPv6 マルチキャスト】 / 【PIM】**

- 本製品が BSR として動作している場合、C-RP の情報がタイムアウトしても、該当 C-RP が担当していたマルチキャストグループの情報を保持し続けます。
- Join/Prune Interval (SET PIM6 コマンドの JPINTERVAL) の設定を変更しても、Join/Prune Holdtime が変更されません。
- Register Probe Time (SET PIM6 コマンドの PROBETIME) を変更すると、同タイマー満了後、Register パケットを送信しなくなり、結果としてマルチキャストデータも送信されなくなります。PROBETIME パラメーターは変更しないでください。

6.37 IPX

 **【コマンドリファレンス】 / 【IPX】 / 【IPX インターフェース】**

IPX インターフェースの構成ポートがすべてリンクダウンしても、SHOW IPX CIRCUIT コマンドの表示項目 Link State に反映されません (表示上は「up」のまま)。このようなときは、いったんケーブルを抜き差しすると正しく表示されるようになります。

6.38 ファイアウォール

 **【コマンドリファレンス】 / 【ファイアウォール】**

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。
- ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストの

ルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。

- ADD FIREWALL POLICY コマンドでダイナミック ENAT の PUBLIC インターフェースに IP と LIST を指定したルールを設定した場合、エラーメッセージが表示されます。その場合は、ADD FIREWALL POLICY コマンドで MAC アドレスリストを追加し、SET FIREWALL POLICY コマンドで IP アドレスを設定してください。
- PUBLIC 側から PRIVATE 側に対して FTP 通信を行った場合、SHOW FIREWALL SESSION コマンドで不要なセッションが表示されることがあります。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
- PUBLIC 側インターフェースにルール NAT（エンハンスド、リバース、ダブルのいずれか）を設定した場合、PUBLIC 側から PRIVATE 側への FTP 通信が正常に行えないことがあります。
- Smurf AMP 攻撃を受信しても、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示されるカウンターがカウントされません。
- 攻撃検出機能（SET FIREWALL POLICY ATTACK コマンド）によって攻撃を検出したとき、検出されたパケットが許可されているにも関わらず、SHOW FIREWALL EVENT コマンドの出力では Deny Event（拒否イベント）に表示されます。
- SHOW FIREWALL EVENT コマンドで表示されるイベント情報は、内部テーブルがいっぱいになると古い情報から削除されます。このとき、攻撃開始のイベント情報が削除されてしまうと、攻撃の終了を検出しても、攻撃終了のイベントを通知しくなりません。
- ファイアウォール有効時、TCP コネクションキュー内に確立したセッションが残ってしまいます。
- ファイアウォール有効時、RTSP パケット（ポート番号：554）を許可するようルールを設定しても、パケットが転送されません。これを回避するには、RTSP のポート番号を変更してください。
- ファイアウォール NAT を使用している環境で、PRIVATE 側へ traceroute を実行すると、PUBLIC インターフェースからの返答パケットに対しても、NAT により PRIVATE 側の IP アドレスへ変換されてしまいます。
- ファイアウォール NAT を使用している環境で、PRIVATE 側へ traceroute を実行すると、PRIVATE 側から返信される ICMP Reply（Time-to-live exceeded）の Inner Header の PRIVATE 側アドレスが、PUBLIC 側の IP アドレスに変換されません。
- アクセスリストが登録されている状態でファイアウォールポリシーを削除するとリポートします。

7 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.7 (Rev.E)」の補足事項です。

7.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

7.2 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア（ファイル名とバージョンが同じもの）を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

7.3 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

7.4 スイッチポートの統計カウンター（8748SL のみ）

8748SL では、ポートグループ「1～24、50」と「25～48、49」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。

7.5 1000Mbps ポートのフラッシングレート

リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

7.6 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループット

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

7.7 フォワーディングデータベース

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」


1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

7.8 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、Ethertype = 0x86DD (IPv6) の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーがマッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない (スイッチングされる) IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。
- IPX ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPX パケットに対しては、SENDMIRROR 以外のアクションが機能しません。また、SENDMIRROR アクションと EPORT パラメーターは併用できません。ルーティング対象の IPX パケットをフィルタリングするには、IPX トラフィックフィルターを使用してください。なお、ルーティング対象でない (スイッチングされる) IPX パケットには、すべてのアクションが機能します (ただし、IP パケットを前提としている MOVETOSTOPRIO、SETTOS、MOVEPRIOTOTOS、SETIPDSCP アクションは使用不可)。
- フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチします。

7.9 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」


ポート認証 (802.1X 認証、MAC ベース認証) を有効にしたポートでは、ポートトランッキング、スパンニングツリープロトコル、ポートセキュリティーを使用できません。また、802.1X 認証の Authenticator ポートと MAC ベース認証ポートをタグ付きに設定することはできません。

7.10 IP マルチキャストのハードウェア処理


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「概要」

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最初に ADD IP INTERFACE コマンドを実行した VLAN の VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

7.11 IGMP Snooping/MLD Snooping 無効時のポート帯域制限 (INGRESSLIMIT) 設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

IGMP Snooping や MLD Snooping を無効に設定しているときは (デフォルトは有効)、スイッチポートの受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を 1000Kbps 未満に設定しないでください。1000Kbps 未満に設定すると、該当ポートで受信したマルチキャストパケットが他のポートにフラッディングされなくなります。

8 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, IPSEC, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT
SHOW SYSTEM TEMPERATURE

TRACE [ADDRONLY]
PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]
SET PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]
PURGE PING TOTALLY

SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST

CREATE/DESTROY IP POOL
SHOW IP POOL
ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ; INTERFACE}]
ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY
ADD/DELETE IP EGP
ENABLE/DISABLE IP EGP
SHOW IP EGP
ADD/SET IP RIP [NEXTHOP]
ADD/DELETE IP SA
SHOW IP SA
SET IP ARP [DLCI] [CIRCUIT]
SET IP RIP NEWIPADDRESS
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE

SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
ADD/DELETE/SET IP ROUTE BLACKHOLE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW
ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]
[NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE]
[TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE

ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ENABLE/DISABLE BGP DAMPING
CREATE/SET BGP DAMPING PARAMETERSET
ADD IP ROUTEMAP [MATCH TAG]

CREATE/SET VRRP ADVERTISEMENT

ADD/SET IP RIP REDISTRIBUTE [ROUTEMAP] [LIMIT] [METRIC] [SUBNET]
ADD/SET OSPF REDISTRIBUTE [ROUTEMAP] [SUBNET] [TAG]

9 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0019-01 Rev.E)」は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※バージョン「J613-M0019-01 Rev.E」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>